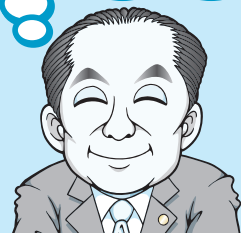


町長の一言



城里町の印象は

最近、日本のトップ企業である本田技研工業社の福井社長と、ブリジストン社の荒川社長のお二人にお会いし、話をする機会がありました。

ツインリンクもてぎのイベント期間中でありましたので、会場までのアクセス道路の話になり、大きなイベントのときは町内の道路がかなり渋滞する事や、若い人が宿泊できる施設が少ない等の話も出ましたが、城里町の印象が薄く、「茨城の方から栃木県まで大変ですね」と言われたので「社長、私の町は、今回合併して城里町になったのですが、町は栃木県に接していて、茂木町へのアクセスは常磐道の場合、水

戸、那珂、友部のどのインターチェンジを使っても殆どの場合、城里町を通過しなければ入れないんですよ。それに今度は国道123号にETC専用のインターチェンジができますので尚多くなるのでは」という話をしました。

道路が整備され、利便性が高まって行くと町内を通過する自動車等が必然的に多くなりますが、ビジネスチャンスとして捉えていく事も大事であるし、また、町の印象を強め、城里町をPRしていくために、地域の明るいニュース、話題等を首都圏方面に向けて発信していくことが大切ではないかと思いました。

文芸しるさと

俳句

釣人の淡き交はり月見草 飯田 勇一
田の草や蜚蜚の隠るる日暮れにて 山崎 正行
不戦勝のユニフォームなり夜すぐ 竹内 幸子
雨傘の透けて明るし合歡の花 鯉 寿美恵
梅雨晴れや抜き捨てし草立ち上がり 飯村 昭子
花桐やはしやぎつつ行く下校の子 田所 厚子
山鳩の声重たかり若葉陰 飯村 愛子
稲よりも色長く伸びて畦の草 高橋 芦江
啄木の新婚の家夏柳 仲田 まちゑ
水源の谷水うまし若葉風 今瀬 多代美
茶摘女の花柄帽子真新し 伊 奈々
切り通し抜けて青葉の眩しかり 和田 範子
椽の花秩父に太き朝の雨 瀬谷 博子
半袖の子等おはようと登校す 仲田 こう
郭公の声聞こえし里の山 岩下 通子
紅霧の実摘む細かき犬矢仲 田口 勝元
青い田に駕鸞かもの田草とり 青木 新三郎
雨上がりさわやかな風キジの声 富田 欽子
逝きし友愛でし庭先水仙花 富田 多蔵
山あいに響くキジの古巣かな 阿久津 はつみ

短歌

雨上がり月夜に光る水たまり ト部 まさ子
春の日は溢れあて友とれんげ田に寝ころびて見し空青かりき 渡辺 千紗子
ボタン藤の蕾もふくらむ季節陽が黄砂の中に霞みて見ゆる 秋山 愛子
みどり増す野を駆くる風烈しくてさんご樹の葉を降りこぼしある 大森 久子
宇宙船ソユーズより戻れる酵母にて醸造されたり「土佐宇賀」は 高堀 よしの
里芋も植える季節と教へくれし母の頭ちくるこぶしが咲けば 佐川 あや
転ばない風邪を引かない食べ過ぎないこの三原則を確と守らむ 杉山 みちこ
春耕の済みたるやわき畑土を踏みしめながら馬鈴薯を植う 宮本 ふみ江
春風に光りて揺れる公園の雪柳しながら白浪のごとし 所 美恵子
漆に陽のさしくれば真一文字空ゆく鳥を映してゐたり 青柳 京子
連休は田植多機の響き男女の波つばめ飛び交ひ鯉舞ふ 山形 式妙
櫻咲くとはいへ風は冷たかり老農夫は腰曲げて春土耕す 藤原 千代
草刈りてエンジンの音ふり返る夫の姿幻の影 森 静江
暗雲の低くたれこむ夕空のテレビの前を去りがたしかな 市川 義子
地蔵さま移り変わりの世の中を笑顔優しく見つめておりぬ 岩下 美知野

川柳

ゆく春をおしみて鳴くか山鳩の八十八夜又もめぐりき 阿良山 ウメノ
野の花は野に咲きこそ奥ゆかし摘まで帰らなはたるぶくろは 山口 栄
取水口より入り来しは白きえびがにかしはし殺すをためらいたり 薄井 ひろ
山峡の淡き芽吹きをいろどりて桜は白し未だ残りありて 枝 不美
「事勿れ主義」に生きあて知らぬ間に見失ひゆるる己さびしむ 片見 和枝
トンネルを抜ければ岩場に山ざくら眺めある間にまた入るトンネル 川上 千代子
茜さす東の空静もりて木菟鳴く森の青葉は深し 島 愛子
病棟より隙なき駐車見下ろせり入る人出る人の悲喜の満てるを 多田 志保子
ひとしきり心すむ初夏の野の匂い行商の帰りつかれもはぐる 坪井 きよ子
屈まりてたんぼの綿毛を飛ばす息子の女孫に添いたる顔柔らかに 萩谷 登喜子
小雪のように舞い散る花びらあぜ道をピンクに染めて季節は去りぬ 和知 美智子
山笑つこの一刻を惜しみつつ母に見せむと小松ダムに来つ 富田 佐智子
幾坂を越えて敬老夏迎う 秋葉 主計
清流に舟を浮べて投網みつ 中山 勇治
降りそうな幾億の星空にあり 中島 芳春
天の川渡りきれない恋もある 山本 隆莊